

新型コロナ禍が全世界を席巻し始めてからはや1年半が過ぎようとしている。新型コロナの脅威は私たちの生活様式を一変させた。歴史上、幾多のパンデミックや自然災害、争乱などが、人間の新たな叡智を生み出す契機となってきた。新型コロナも、それを克服し沈静化していく過程で、人間は、非接触、密接回避、リモート、マスク着用、アルコール除菌などで、この1年半で半ば当たり前となった新しい生活様式の中から真に生存に適ったものを選び抜き、残していくのだろうか。

コロナ禍とデータ・サイエンス

私たちは毎日インターネットやテレビ、新聞で新規感染者数、死者数、ワクチン接種者数などの数値データ及びそのグラフや表を目にしてきた。これらは自分や家族の健康や死に直接関わるものであるから、真剣に現実を読み取り、リスクを計算し、最適な行動をとるための基礎となる。つまり、連続した数値データやグラフから判断して、いわば本能的判断で自ら思考し行動を決定しているわけで、この点で、新型コロナ禍は、人々のデータ・リテラシーを確実に向上させている。

データ・リテラシーとは、一般にデータを読み取って理解し、解釈し、分析する能力のことをいう。現代社会に生きる私たちは、まず膨大に存在する複数線の情

ながらも毎日更新されるデータから真実を読み取り、自分の行動を決定している。

近年、大学教育においてもデータ・サイエンスの重要性が唱えられている。つまり、理系のみならず文系の科目であっても数学や統計学の方法論を導入して教育を行ない、数理的思考力とデータ分析・活用能力を涵養するということである。私が専門とする財務会計の分野でも、主たる研究・教育方法は従来の会計基準・規定解釈型から、企業が大量に発信する様々な財務データを、主に計量経済学的手法を用いて分析し、その傾向を明らかにする実証研究型に移行している。データ・サイエンスを理解するためには、一定レベルのデータ・リテラシーが必要となる。この新型コロナ禍が、人々のデータ・リテラシーを向上させ、データ・サイエンスを理解しやすくする状況を作り出しているのは、人類進化の必然ではないだろうか。

コロナ禍がデータ・リテラシーを向上

新型コロナは、人間の生活習慣だけでなく、私たちの意思決定方法にも影響を及ぼしている。この1年半、



名古屋経済大学
経営学部准教授
佐藤 豊和

報、データを取捨選択することから始めなければならぬ。Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとって、VUCA(フーカ)の時代と呼ばれる現代にあって、氾濫するメディア情報から意思決定の基礎となるデータを選択するだけでも一定の能力を要する。世界中の人々は、新型コロナ禍において、模索し

さとう とよかず 会計学。
名古屋経済大学大学院博士後期
課程単位取得退学。1970年生まれ。

